

利用者、保護者、職員が

共に夢を語れるように

理事長・統括施設長 岡野光宏

今年も残すところあとわずかに
なつてまいりました。寒さ厳しき折、
皆様にはいかがお過ごしでしょう
か。

私はこの地で生まれ、障害を持つ
子らと関わる親のもとで、衣食住を
ほとんど共にした幼少期がありま
す。大正時代に設立した施設の中
私と同じような経験をしてきた方
は現在少なくなつてきています。公
的援助や障害者の権利等が充分で
はなかつた昔、少ない職員で学ばせ、
働き、生活してきた施設の姿に私の
両親の、この子らの為にと強い
覚悟を肌で感じてきました。

現在、社会福祉法人筑峯学園は社
会的ニーズに応える形で事業の発
端である児童施設、成人の日中活動
の場としての障害者支援センター、
未来（生活介護、就労継続支援B型）、

グループホーム、相談支援事業所、
新たに開設する児童発達支援と事
業をすすめてまいりました。職員数
も70名余となり、この子らの為
という児童施設時代の強い意志を
持ちえない職員もいることは事実
です。職の一つとして就労した施設
には障害の異なる利用者がいて、支
援困難な事も多々あります。そこ
に遣り甲斐なり、福祉人としての工夫
があつたものですが、なかなかそ
ういう福祉労働者に育っていくのは
難しいようです。困難さを乗り越え
るためのチームワークや研修など
を強化し、ここを利用して良かった
と利用者、保護者が思えるような各
事業所になるよう法人責任者とし
ての責務があると思つています。

現在、経営的な観点からみても人
件費率が他施設より高く、健全な経

営とは言えません。私はパート勤務
という形より正職員として足並み
をそろえ高い意志を持つて力を合
わせていくという形を望んでおり
ましたが、今後一般企業と同じよう
にはいきませんが、少しずつコスト
意識を向上させ、適正配置やシフト
勤務の活用など利用者にとつても
効率的で安心できる体制づくりも
必要と考えています。

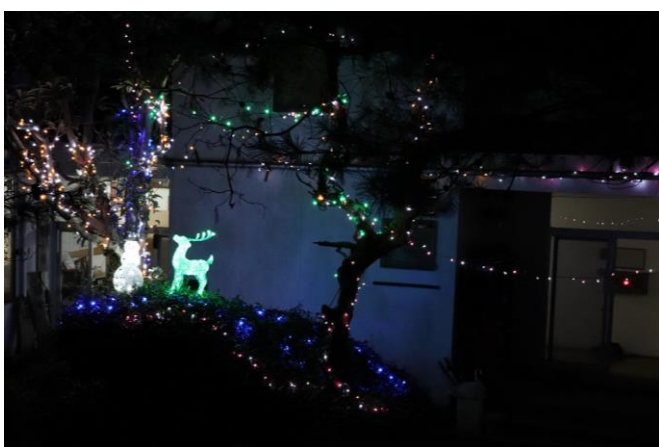
児童施設の改築、成人施設の開設
の早期実現に向け多くの資金が必
要となつてきます。まだまだ、これ
からも夢は多々あります。短期、中
期、長期計画を密にして利用者にも
保護者にも職員にも前を向いて夢
を見、共に語れる人になつてほし
いと思つております。

今年も後援会の皆様には、児童施
設に布団乾燥機を2台、又、各事業

所にカメラの寄付をいただき、あり
がとうございました。心より感謝申
し上げます。

保護者の皆様にも運動会、収穫祭
等にご協力いただきました。ありがとうございます。
保護者の皆様の
生き生きした活動を通し、利用者も
励まされたことと思います。

最後になりましたが、来年、平成
30年が、皆様方にとつても良いお
年になりますことを祈念しており
ます。



日常生活から心の自立を目指して

筑峯学園 児童施設 施設長 岡野美智子

今年も玄関前にイルミネーションが点灯され、「きれいだね」とうっとり眺める園生と職員の姿を見て、あわただしい日常の中でクリスマスは夢を感じる時だなと感じています。

現在、児童施設は定員40名の満床で、1日8名枠の短期入所者、5、6名の日中一時支援利用者も多くつくほうだより
の方々にご利用していただいています。入所に至ってはここ数年、年少児の入所で入所者の平均年齢が若くなっています。30名通学児と9名の学卒者と1名の未就学児、現在はロングステイで1名の未就学児を受け入れています。月曜日から金曜日の学校生活は8時過ぎに園の前の道路に待機しているスクールバスに乗るまで非常にあわただしく職員のチーム力、園生の協力ですめられます。給食の職員の協力も

借りながら主として支援職員3名で朝食を食べさせ、歯を磨き、箸いれ、水筒、連絡帳をカバンに入れ、通学服に着替えをし、ハンカチ等を持たせ、靴を履いていざスクールバスへ！毎日、誰かしかのトラブル発生、全員無事乗り込み発車を見送るとほっとします。一息入れた後は4台の洗濯機をフル回転して衣類を洗濯し、干し、布団を乾燥機に入れ乾燥させ、明日の学校の用意をするなど職員は良く働きます。短期入所や日中一時支援の利用者はスクールバスに乗れないので職員が学園車をつくば特別支援学校や土浦特別支援学校にほぼ毎日送迎をし、地域保護者のニーズに応えてのサービスを行っています。

一方、学卒者の園生達も食堂や園内の掃除をし、洗濯ものを日の当たるところに移動させ、次々と仕上が

ってくる洗濯物を干します。老いてくると朝起きが苦にならなくなってきた私も、園生と一緒に洗濯物を干します。数日前からバリバリと洗濯物が凍るようになってきました。寒いね、冷たいね、といいながら【北風吹きぬく寒い朝は心ひとつであたたかくなる・・・】と吉永小百合さんの歌を口ずさみ、「先生、その歌何？」とひやかされながら朝の仕事を楽しみながら行なっています。日中は作業学習の時間、山のような洗濯物をたたんで個々人のかごに仕分けし、各棚にかたづけます。通学用の洋服、体操服、巾着や食事の備品など一人一人こまごまとしたものの整理などの作業に加え、今ですと落ち葉掃きや環境整備、畑仕事などに取り組みます。そして午後3時半過ぎると下校です。また、スクールバスに迎えに行き、着替え、カバンから連絡帳を出し、おやつを用意し、入浴となります。子供達も役割分担があり、自ら取り組める様になった子、言われていやいやながらもやる子、上手に逃げたしまう子など様々です。でも、障害があるからや

らなくていいということではなく、やれるようになることはできるといった現象的なものでもなく、心の自立につながる事と思います。自分のため、友達のため、といった気持ちには大人になったとき大きな力となる事を信じています。

平成29年もあとわずかです。今年も保護者の皆様はじめ多くの方のご協力で子供たちと過ごすことができました。児童施設は子供たちを育てながら、自分も育つところを思います。保育士になりたての職員が半年余経過し、人を見る目が育ってきました。なぜと思う子供たちの行動に対して自分なりの仮説もたてられています。保護者の皆様と触れ合う機会の中で、今までの家庭での養育の大変さに思いを馳せることもできるようになっています。そうしてこの子供達の為に適切な支援ができる職員に育ちつつあります。来年も子供達、職員と心を合わせ明るく前向きな取組ができるよう努力してまいります。

皆様方も良いお年を迎えられますよう祈念しております。

やりがいのある充実した活動を！

障害者支援センター未来

センター長 松島寿樹

今年度は冬の訪れが早く、早くも北条大池は凍り、筑峯学園の周辺の田畑には霜が降りる日が多い12月です。皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年度も障害者支援センター未来では、周辺の田畑の耕作を請け負った周辺の放置竹林の整備、つくほうの森の開拓整備、原木椎茸づくり、果樹の栽培などの山林作業など日々大自然の中で活動しています。

また、昨年度に引き続き施設外就労の場として筑波大学のセキショウフィールドの清掃や(株)みらいファームでのサツマイモ生産作業などに携わりました。セキショウフィールドの清掃は職員と利用者数名で人工芝のフィールドに落ちた周辺の木々の落ち葉の清掃を主に行っています。エンジンブロワで落ち葉

とあります。

11月には収穫祭に多数の保護者の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。今年度は新たに購入した耕作放棄地をみんなで再生した棚田を食事場所として加えました。目の前に広がる山々の風景を楽しみながらの昼食はいかがでしたでしょうか？昨年度初めて保護者会が主体となりカフェを運営していただきましたが、今年度は保護者会のお父さん方を中心とした焼きそば屋台も加わり、盛況でした。保護者会役員の方々をはじめ準備運営に携わっていただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

来年もつくほう米作り、畑での野菜づくり、原木椎茸づくり、つくほうの森整備など雄大な自然の中の作業を通して、利用者さん一人ひとりが仲間と共にやりがいを感じながら活動に参加出来るように様々なことに挑戦していきたいと思えます。周辺の竹林からメンマなんて作ろうかと企んでおります。今年度も障害者支援センター未来が充実した活動をしていけるように職員

員・利用者共々、創意工夫をしながら取り組んでいきたいと思えます。

最後に今年も保護者の皆様、後援会の皆様、関係者の皆様、様々な面でご協力いただき本当にありがとうございます。2018年もよろしくお願いたします。よいお年をお迎えください。

今年度も新しい支援員が増えました。やはり新たな職員は利用者との信頼関係の構築に苦労している姿が見られますが、利用者に必要な支援を考えながら積極的に関わる事によって、利用者も職員も「相手を知る」ことが出来、コミュニケーションが取れるようになっていきます。様々な葛藤を越え、より良い関係を構築していただきたいと思います。

今年度も新しい支援員が増えました。やはり新たな職員は利用者との信頼関係の構築に苦労している姿が見られますが、利用者に必要な支援を考えながら積極的に関わる事によって、利用者も職員も「相手を知る」ことが出来、コミュニケーションが取れるようになっていきます。様々な葛藤を越え、より良い関係を構築していただきたいと思います。

利用者さんの笑顔のために

グループホームほっとハウス

施設長 松山金寿

つくほうだより

今年も残すところ、あとわずかになってまいりましたが、皆様は、いかがお過ごしでしょうか。ほっとハウス平沢からの景観も、山の木々は葉を落とし、すっかり冬の様相を呈してきました。また、天気の良い夕方には「影富士」も見られる季節になってきました。皆様も、こちらにお越しの際、もし機会がありましたら、冬の景観を楽しんで頂ければ幸いです。

ほっとハウスの状況ですが、消防法改正の為、作谷各棟にスプリンクラーの設置を計画しており、今年度中には取り付け工事が完了する予定になっております。引き続き、防災、安全管理に努めたいと思っております。

利用者様の様子ですが、作谷、平沢共に、寒さに負けず、元気に生活しております。何名かの利用者様は、

生憎、風邪をひいて静養していましたが、今では、風邪も治って、元気に過ごしております。また、これらの季節、インフルエンザやノロウイルス等発生しやすくなってきましたので、ほっとハウスでも感染予防に努め、利用者様の健康管理に配慮していきたいと思っております。また、余暇活動として、買い物外出にも出かけてきました。担当職員と一緒に、事前に何を買うのか相談したり、落ち着きなくそわそわしたりと、出かける数日前から、楽しみにしている様子が伺えました。当日は、それぞれが思い思いの買い物をして、満足した様子で帰ってきて、満面の笑みが見られました。何々を買ってきたと、熱く語る利用者様もいました。年末には、毎年恒例のクリスマス会も計画しておりますので、ご馳走を気にしたり、プレゼントを気に

したりと、利用者様も楽しみにしている様子がみられます。

利用者様の笑顔や、生き生きとした生活を見るのが何よりと思いません。利用者様が安心して生活出来る様、また、利用者様が安全に快適に生活出来る場を提供し、維持していく事が、私たち職員の務めと考えております。より良い支援を提供出来る様に、利用者様を第一と考え利用者様中心の支援を行なってまいりますので、引き続き、皆様方のご支援を頂ければ幸いです。それでは、どうぞ良いお年をお迎えください。

「サポートブック」

ご利用ください！

相談支援事業所 所長 武田真浩

今回は、『サポートブック』についてご案内させていただきます。

つくほうだより

とは申しまでも、昨年のつくほうだよりにおいても紹介させていただきました。今回は2回目となります。なぜ再び？と思われる方もいるかもしれませんが、日々、相談支援にいろいろな方と関わらせていただいている中で、複数の福祉サービス提供事業所を利用されているお子さんや多職種多機関の方が関わられている利用者さんもあります。特にそのような方にとっては、関係する支援者や機関等の間において情報の共有や連携を図っていくことが必要であり、その際のツールとして「サポートブック」を活用されるといいのではないかと思っております。

サポートブックとは、お子さん（利用者さん）に関わる人たちに、

お子さん（利用者さん）の特性を知ってもらい、適切な対応や支援をお願いするためのガイドブックのようなものです。言い換えれば、家族以外の人に関わってもらう時にお子さん（利用者さん）に関する様々な情報を知ってもらうためのツールです。お子さん（利用者さん）と支援者をつなぐ、就学前く学齢期く青年期といったライフステージをつなぐ、理解者や支援者を増やしていく上でも活用できるものです。

例えば、これから幼稚園や保育園に就園されるお子さん、小学校に入学されるお子さんはもちろん、進級で担任の先生が変わる場合は今までの情報がどれくらい引き継ぎをされているのかわからないところがあるかと思えます。そのような時にその都度お子さん（利用者さん）のことを伝え続けていくことにご

苦勞された（または、ご苦勞されている）方もいらっしゃるかと思えます。

サポートブックを作成するのは主に保護者の方となります。作成する手間を考えると…と気が引けてしまうところもあるかと思いますが、就学や進級をする度に、福祉サービス等を利用する度に同じような内容を伝え続けていくことの手間や作成しておくことでのメリットを考えると、作成する手間もそれほど負担にならないのではと感じます。作成にあたっては保護者の方のみではなく、関係機関の方と一緒に考え、相談しながら作成してもよいかと思えます。

また、作成しておくことで障害年金の手続きの際に役立つたという声も多く聞かれております。

お子さん（利用者さん）が安全で楽しく健やかに生活していくことを助けるために、特性や必要な情報をまとめ、本人を中心にご家族や支援する機関及び人々それぞれが情報の共有が図れるようにサポートブックを作成してみてください

でしょうか？

興味や関心を持たれた方、もっと詳しく知りたいと思った方等、質問等がございましたら、お気軽に「相談支援事業所 筑峯学園」までお問い合わせ下さい。すでに作成して活用されている方もおりますし、作成するにあたっての様式等の情報もございますので、ご連絡いただければと思います。

皆様方には今年も大変お世話になり、ありがとうございました。至らないところも多々あったかと思われませんが、引き続き皆さんにとって相談しやすい事業所を目指して取り組んでいきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。どうぞよいお年をお迎えください。

